

# 中学校 全学年

# 【戦争と平和 3】

☆こんな本を希望

戦時下の子どもたちに関する本





☆図書館で準備できる本(全20冊)

	書名・著者・出版社	内容
1	むらさき花だいこん 大門高子/文:松永禎郎/絵 新日本出版社 1999.7	人間として生きるのに、忘れられないことがある。忘れてならないことがある。中国の大地・南京から持ち帰った花、むらさき花だいこんに込められた、戦争の悲しみと平和への決意とは…。絵本だが戦争の実態を象徴的に表している。
2	うしろの正面だあれ 海老名香葉子/著:千葉督太郎/画 (文学の扉 18) 金の星社 1985.7	当時の子どもや東京の様子を知ることができる。
3	盆まねき 富安陽子/作:高橋和枝/絵 偕成社 2011.7	8月になりました。なっちゃんの家族は今年もお盆をむかえに、おじいちゃんとおばあちゃんの家へでかけます。おじいちゃんたちが、楽しい話や戦争の話をしてくれるのです。ところが今年、ちょっとふしぎな体験をして…。最後に特攻隊員だった叔父の話がある。
4	花や咲く咲く あさのあつこ/著 実業之日本社 2013.8	戦争の影が色濃くなる昭和18年、ひそやかなおしゃれに胸をときめかす少女たち4人の友情と運命を、あたたかな筆致で描く。太平洋戦争を舞台にした、感動の“戦時下”青春小説。
5	いま、日本は戦争をしている 太平洋戦争のとき子どもたち 堀川理万子/絵・文 小峰書店 2025.6	太平洋戦争中、子どもたちは日々、何を感じながら暮らしていたのか。空襲、原爆、地上戦、引き揚げ、疎開…。子どもたちの語りを通して戦争の理不尽とリアルを伝える絵本。
6	さくら 田畑精一/作 (日・中・韓平和絵本 ) 童心社 2013.3	さくらの花が咲く春に生まれたばく。その年に日本の侵略戦争が始まり、教科書も新聞も戦争の色にぬりかえられて…。日本・中国・韓国の絵本作家が手をつなぎ、子どもたちにおくる平和絵本シリーズ。
7	ガラスのうさぎ 高木敏子/作:武部本一郎/画 (新版 ) 金の星社 2000.2	昭和20年、太平洋戦争の終わりの年、12才の少女敏子は疎開しているうちに、東京大空襲で2人の妹と母を失ってしまう。そして父までも…。実際の戦争体験に基づいて綴った名作。文字を大きくするなど読みやすくなった新版。名作である。



戦時下の子ども

8	トンネルの森 1945 角野栄子/著 KADOKAWA 2015.7	太平洋戦争のさなか、幼くして母を亡くしたイコは父の再婚相手と生まれたばかりの弟とで疎開した。家のそばにある、暗く大きな森で脱走兵が自殺した噂を耳にし…。『魔女の宅急便』の著者が自らの戦争体験から描き下した物語。
9	ぼくが見た太平洋戦争 宗田理/著 (心の友たち) PHP 研究所 2014.8	 <p>勤労学徒 450 名が犠牲になった豊川の空襲、救助が来なかった三河の大地震、食糧不足で空腹、ダニやシラミとの闘い、B29の機銃掃射…。太平洋戦争の戦時下、愛知県で中高時代をすごした著者が、戦争体験を語る。</p>
10	死んでもプレストを 早乙女勝元/作:遠藤てるよ/画 (子ども平和図書館 4) 日本図書センター 2001.2	太平洋戦争末期、「死んでもプレストをはずすな」を合言葉にして、電話局とともに燃えついた交換手嬢たち。多くの遺体は身元が知れず、残されたガマ口の金具で数を確認した…。娘たちの悲劇から、平和とは何かを考える。再刊。
11	子どもたちへ、今こそ伝える戦争 子どもの本の作家たち 19 人の真実 講談社 2015.7	戦後 70 周年の今年、子どもの本の作家 19 人が描き下ろしの文と絵で子どもたちに戦争を伝える渾身のドキュメンタリーアンソロジー。イラスト解説、地図、年表等も掲載。
12	あの戦争のなかにぼくもいた 石浜みかる/著 (ベスト・セレクション 1) 国土社 1992.6	クリスチャンの父は、街頭布教のため特高につかまり刑務所に。母の田舎に疎開した子どもたちは、まわりや学校で「非国民」と差別された…。第二次世界大戦の時代を子どもの視点で描いた小説。特高のふるまい方なども分かる。
13	八月十五日ぼくはナイフをすてた 戦争の中のぼくの中学時代 井出孫六/著 (新・のびのび人生論 11) ポプラ社 1998.5	ぼくが中学校に入学したのは1944年4月、第二次大戦の真っ最中のこと。きびしい戦局を反映して中学生は勉強をするよりも勤労奉仕の方が多かった時代でした。著者の1年4カ月にわたる不幸な戦時中の体験を語る。戦時中の旧制中学生の生活がよくわかる。
14	凧になったお母さん 年老いた雌狼と女の子の話 赤とんぼと、あぶら虫 野坂昭如/原作:黒田征太郎/絵 (戦争童話集-忘れてはイケナイ物語り-) 日本放送出版協会	戦火の中を逃げまどい、熱いと言うカッチャンのために、お母さんは必死に水を与えようとします。汗・涙・お乳、血、体中の水分をすべて与えつくしたお母さんの体は…。75年中央公論社刊「戦争童話集」より3編を収録。
15	平和を考える戦争遺物 1 子どもたちと戦争 汐文社 2013.6 	地域の博物館などに残されている戦争に関する実物の資料をビジュアルで紹介。1は、日用品やおもちゃ、ゲーム、軍神グッズ、学童疎開の写真や日記といった、子どもたちの生活や学校教育に関係するものを収録する。

戦時下の子ども

16	<p>シリーズ戦争孤児 1 戦災孤児 駅の子たちの戦後史 汐文社 2014.7</p>	<p>戦争によって身寄りを亡くしたり、親と生き別れたり、親から棄てられたりして孤児となった「戦争孤児」。 1は、戦災や戦後の貧困などで身寄りを失った戦災孤児たちの様子を多数の写真とともに伝えます。</p>
17	<p>わたしが子どものころ戦争があった 児童文学者が語る現代史 野上 暁/編:神沢利子/[ほか著] 理論社 2015.8 内容:国境のある島で暮らして 神沢利子/述 ふりむくと戦争があった 森山京/述 少女時代を満州で過ごして あまんきみこ/述 「ほろびた国」での少年時代 三木卓/述 雪国での集団疎開 角野栄子/述 戦中戦後の思い出から 三田村信行/述 広島に生まれて 那須正幹/述 米軍基地のある町から見た戦争 岩瀬成子/述</p>	<p>神沢利子、森山京、あまんきみこ、三木卓といった児童文学者8名が語る、戦中戦後の子どもの暮らし。子どもの目を通して見つめた戦争のすがたと、敗戦から復興する時代の日本のようすが浮かび上がる。</p> 
18	<p>火の壁をくぐったヤギ 岩崎京子/文:田代三善/絵 国土社 2012.3</p>	<p>東京が大空襲をうけた夜、スミコは飼っていたヤギを助けようと、ヤギに濡らした寝巻きをかがせ、火の廊下のような町の中を逃げ…。戦争の悲惨な現実を語りつぎ、平和について考えるためのお話集。</p>
19	<p>戦火と死の島に生きる 太平洋戦・サイパン島全滅の記録 菅野静子/著 (偕成社文庫 4081 ) 偕成社 2013.8</p>	<p>太平洋戦争、激戦の地サイパン島。野戦病院の志願看護婦となった少女は、いかに戦争を生きぬいたのか？ 著者の戦争体験を綴った、戦争と平和を考えるためのノンフィクション。外地での戦争の実態がわかる。ルビ多い。</p>
20	<p>多毛留・おとなになれなかった弟たちに… 米倉斉加年/文・絵 (偕成社文庫 3159 ) 偕成社 1989.3</p>  <p>弟のヒロユキは、僕が小学4年生のときに生まれた。太平洋戦争の真っ最中。父は戦争に行き、毎日のように空襲があった。食べ物は十分になく、母は僕たちに食べさせるために自分はあまり食べなかった。そのせいで、ヒロユキのためのお乳が出なくなった。 配給のミルクが一缶、それがヒロユキの大</p>	<p>切な食べ物だった…。そんな大切なミルクを、僕は何回も盗み飲みしてしまった。どんなに悪いことか、よくわかっていたし、弟がかわいくてしかたがなかったが、飲んでしまった。 空襲がひどくなり、疎開しようと思い、田舎の親戚を訪ねた。はるばる出かけてきた母と僕と弟を見て親戚の人が口にしたのは「うちに食べ物はない」と言う言葉。 母はくるりと後ろを向いて帰った。その顔は悲しく、しかし、僕たち子供を必死で守ろうとする強く美しい顔だった。 やっと疎開先が決まり、僕たちは引っ越しをした。しかし疎開者に配給はない。母は着物を米と交換した。母の着物はなくなった。そしてヒロユキは病気になった。 十日くらい入院しただろうか。ヒロユキは死んだ。栄養失調だった…。小さなヒロユキのために小さな小さな棺が用意された。しかし、棺が小さすぎて入らなかった。「大きくなっていったんだね」と言うと、母は初めて泣いた。僕はひもじかったこと、そして弟の死は一生忘れない。</p>